

俳句の会「芦火」

☆柑蘆同人誌「芦火」第718号（十二月号）表紙

- ・ 柚子湯で寛ぐカピバラ
- ・ 冬の季語：「冬至」（仲冬・時候）
- ・ 来月号（一月号）の兼題です。



<冬至>二十四節の一つで太陽が最も南行し、一年中で昼が最も短く、夜が長い日。十二月二十二日頃にあたる。無病息災を祈って柚子風呂に入ったり、粥や南瓜を食したりする（子季語）冬至餅、冬至南瓜、一陽来復

季語「冬至」を詠った有名俳人の句に以下のようなものがあります。

- ・ 諍ひて一日遅れの冬至粥／咲間匡
- ・ 本送る底荷の冬至南瓜かな／黒田杏子
- ・ 冬至湯に絆創膏も浸りゐて／高澤良一
- ・ まだ母に冬至南瓜を切る力／大庭星樹
- ・ 教はりて若妻の買ふ冬至柚子／阪口良子
- ・ 山國の虚空日わたる冬至かな／飯田蛇笏
- ・ 母在りき冬至もつとも輝きて／三橋鷹女
- ・ 冬至粥すすりて一家すこやかに／島津友之助
- ・ いづくかに在りたる冬至南瓜切る／皆吉爽雨

☆前月の清記表に記載の中から選ばれた高得点句（5点以上）

・前月の清記表に記載された15名の105句のなかから互選で高得点を獲得した句です。

- ・赤蜻蛉改造バスの喫茶店／緑汀 8点
- ・返信のペンの進まぬ夜長かな／緑汀 7点
- ・庭石に秋冷至る茶席かな／碧亥 6点

*以下は4点句（惜しい！もう少しで5点）です。

- ・草の実や平城宮址の空広き／恵吾
- ・クラシック聴かせ新酒を育ており／勝
- ・末っ子の花マル飾り文化の日／要
- ・秋晴や身に一片の咎めなく／恵吾
- ・新蕎麦や麵打ち台の音確か／勝

☆その他のトピックス

①「散歩道の自然～写真解説」：安本緑汀

筆者の緑汀さんは写真が得意で毎回散歩道で見つけた植物を写真入りで解説してくれています。

今月は、アオイ科のフヨウ（芙蓉）です。芙蓉の園芸種に酔芙蓉（スイフヨウ）というのがありますが、朝、白色の花が咲き、午後には淡紅色に、夕方から夜にかけて紅色に変わって翌朝に凋みます。白い花がまるで酔っぱらったように紅くなるのでこの名があります。

②「緑汀さんの『散歩道の自然』」：後藤碧亥

緑汀さんが「散歩道の自然」で取り上げた植物を、別の視点でとらえた随想文を掲載。京都の三大祭りの一つである「葵祭」と徳川家の家紋の「三つ葉アオイ」を取り上げられています。

③「草炎さん『趣味の作品展（令和五年十一月三日）』」：平林温州

今年七月にNHK大阪および和歌山で放映された「紀州大水害から70年」で一躍時の人となった北道子（草炎）さんが毎年「姫路年金者組合・趣味の作品展」に出展されている絵画、陶芸作品等を鑑賞するために訪問した時のことを紹介しています。

④「晩秋の播州路」：穂永穂心

北草炎さんの「姫路年金者組合・趣味の作品展」を鑑賞された後、姫路城界限を散策されたときの模様を記述されています。

⑤和歌山大学ホームページの『「わだいフェスタ2023」を開催しました!』を転載しています。

⑥以下の方々より近況報告がありそれぞれ転載されています。

- ・要さま ・勝さま ・草炎さま ・碧亥さま ・六甲さま

<俳句の会「芦火」概要>

- ・会員は柑芦会会員
- ・現在の会員は大学3期卒から25期卒の18名
- ・昭和38年（1963年）結成・・・約60年の歴史
- ・会員の作句は通信俳句誌「柑蘆同人誌・芦火」に掲載され毎月各人に配付
- ・創刊以降毎月発刊。令和4年（2022年）6月に第700号発刊。
- ・50号ごとに句誌を発刊。令和4年5月に「芦火第14号句集」発刊
- ・創刊時からの延べ会員数、72名（高商32名、高商教授1名、大学39名）

<編集者・コンタクト先および会費>

- ・編集者：穂永 千秋（大学17期）（俳号：穂心）
メールアドレス：suishin2010@dream.ocn.ne.jp／携帯：090-9887-2513
- ・その他のコンタクト先：
 - ・山下 勝（大学14期・前編集者）（俳号：勝）
メールアドレス：yama723@nifty.com／携帯：090-1349-6727
 - ・平林 義康（大学20期）（俳号：温州）
メールアドレス：hirabayashi9497@yahoo.co.jp／携帯：090-8525-7293
- ・会費：年会費1万2千円

以上

（文責：平林 温州）